

技術情報 vol. 1

大豆

発行年月日 2023.05.15
JA 新はこだて厚沢部営農センター
檜山農業改良普及センター
檜山郡江差町字柳崎町 55 番
TEL 0139-53-6141
FAX 0139-53-6143

大豆のは種について

■ は種

は種時期は、5月中旬以降(地温 10℃以上、出芽期に遅霜の心配が少ない時期)を目安とし、5月中には種作業を終わらせましょう。

10a当り株数の目安は右表の通りです。なお、株数は、地力が高く生育が旺盛となりやすいほ場では、倒伏と収量性を考慮して決定しましょう。

<10a 当り株数の目安(2粒まき)>

畝間(cm)	株間(cm)	株数(株/10a)
66	18	8,418
66	20	7,576
72	16	8,681
72	18	7,716
75	16	8,333
75	18	7,407

■ 種子消毒

病害やタネバエ等防除のため、種子消毒は必ず実施してください。

※1) 「キヒゲン R-2 フロアブル」を使用する場合、「クルーザーFS30」処理乾燥後に塗沫処理する。

※2) まめぞう(根粒菌)を使用する場合、種子消毒剤の塗沫後に処理する。

■ 施肥

(1) 窒素量:1.5~2.0kg/10a

※ 地力により調整する。また窒素過多は根粒菌の着生が悪くなるので避ける。

(例) S325 または BBS343 50~70kg/10a

(2) 初期生育の確保が困難なほ場では、リン酸資材を増肥してください。

(例) 重焼燐2号 20kg/10a

■ 除草剤

各剤の使用基準を遵守し、生育不良を起こさないよう注意してください。

※1)「ラクサー乳剤」は、「ロロックス」と「ラッソー乳剤」の混合剤である。

「ロロックス」、「ラッソー乳剤」を使用した場合、「ラクサー乳剤」は使用できない。

※2)「パワーガイザー液剤」使用上の注意点

- ・雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸しないように散布する。
- ・使用時期は大豆の出芽揃までである。高薬量又は初生葉期以降の散布は、発芽障害・黄化・枯死等の薬害が生じるおそれがあるので使用基準を厳守する。
- ・有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので使用しない。

※3)使用時期は、以下の表を参考とする。

は種直後	は種当日～1日後
は種後	は種後2日～5日後
は種後出芽前	は種後2日～出芽2日前
出芽直前	出芽の前日
出芽揃	は種粒数の80%の出芽を認めた日